

令和元年度 第5回静岡市文化振興審議会議事録

- 1 日 時 令和2年3月24日(火) 14時～15時
- 2 場 所 静岡市葵消防署 7階 71会議室
- 3 出席者 (委員)
平野会長、河村委員、久保田委員、是永委員、田中委員、中村委員、
成島委員
(市当局)
中島まちは劇場推進監、萩原まちは劇場推進課課長補佐
草分参与兼文化振興課長、小山課長補佐兼文化交流係長
竹林主任主事、鈴木主任主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 会議内容 1 開 会
2 議題
静岡市文化振興計画 中間評価について
3 事務連絡

【議事録】

(平野会長)

審議の開始にあたりまして、本日の審議会は議事録についても一般に公開することとなっております。議事録の作成にあたっては、会長や委員が内容について確認し、署名することとなっております。署名者として二人必要ということですので、私のほかにお一人お願いしたいのですが、今回は久保田委員にお願いしたいと思います。

それでは、次第に沿って進めてまいります。

議題「静岡市文化振興計画 中間評価について」事務局より説明をお願いします。

(事務局 小山)

<静岡市文化振興計画 中間評価について説明>

(平野会長)

皆さんからの様々な意見を事務局がまとめたものがこの資料になります。ただいまの事務局の説明に対し、ご意見、ご質問等はいかがでしょうか。

(河村委員)

前回出た話や、委員の皆さんの意見をうまくまとめているかと思います。

(久保田委員)

「2 文化を取り巻く背景」の一番下の「芸術文化等の鑑賞、参加の形態」に「SNS 等を活用し芸術文化を発信することで、多くの人が気軽に芸術文化に触れることができる。」とあります。その次に「テレビ鑑賞も同様ではないか。」とありますが、メディアとしてのテレビは、俗に言う地上波的なものとユーチューブ的なものがあります。ユーチューブ的なものは上の SNS に含まれると思うのですが、そこの若干の時間のズレのような感覚があります。逆に言えば、地上波的なテレビが終わった感があるような言い方をされている場合もあります。「テレビ鑑賞も同様ではないか」ということだと、例えば NHK とかになるとと思いますが、そこを広げてユーチューブなどを含めたテレビ鑑賞となるよう「映像鑑賞」とした言葉の方が意味としてはいいのではないのでしょうかと思います。これまでの話からですと。

上の方でインターネットのことが書いてありますので、そこの整合性も考えるとそう思います。今まではテレビを含めていなかったから、含めたらという意見ということにはわかるのですが、実は事態はもっと先まで進んでいて、テレビの視聴率が落ちていたりということになっています。今回のコロナウイスことウェブ授業になって、全然学校に行かなくてもいいということになっています。あっという間に状況が変わっています。それが今回のことで見えてきたような気がします。

(平野会長)

今のご意見についていかがでしょうか。具体的にはどう整理していけばいいでしょうか。

(成島委員)

この一文自体はアンケートの注意書きに呼応する形での文言なので、この形の中で書くのであれば、「映像というようなライブ体験ではないものも」という表現もあります。

(久保田委員)

例えば、テレビ鑑賞と書かないで、「映像鑑賞も同様ではないか。中間評価に係る市民意識調査は前提として家庭内でのテレビ鑑賞や音楽鑑賞を除く～」はいかがでしょう。テレビというと、狭義に捉えられる気がします。

(成島委員)

そこは、今更感があるかもしれませんが。

(河村委員)

「映像鑑賞（テレビ鑑賞も含む）」にすれば、その下に繋がると思います。

(久保田委員)

そうですね。括弧内は変えられないですからね。

(河村委員)

前提としてのあとの文章というのは、アンケートに記載されているので、そこをいじることは問題かなと思います。

(平野会長)

それでは、「映像鑑賞（テレビ鑑賞も含む）も同様ではないか。」でよろしいでしょうか。

ありがとうございます。他の部分はいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、今ご指摘いただいたところを再度事務局で修正し、それを皆さんのご意見とします。今回の中間評価のまとめを受けて、今後の文化振興計画の大きな見直しを見据えて来年度に入っていこうと思います。

ここでもう一度、全体のスケジュールの確認をした方がいいですね。

(事務局 小山)

<来年度スケジュールの説明>

(平野会長)

来年度のスケジュールについてご質問はありますか。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

この審議会は、今回で最後となります。せっかくですから、次への期待を込めるメッセージを皆さんからお願いします。

(河村委員)

ありがとうございました。審議委員に応募し、選んでいただきました。文化はあまり縁がない状態で参加しましたが、皆さんの意見や考え方を聞くことができました。私自身も地域貢献活動を10年以上もやっています。前回の審議会が終わってから、まちは劇場推進課にご挨拶に伺い、情報共有しながら市を盛り上げるためにと声をかけさせていただきました。文化には直接関係はありませんが、SDGsの推進ということで企画課のブースの出店も決まりました。更に、緑地政策課で大浜公園の改修に伴うアンケートやPRをしたいということでブースの出店が決まりました。今まで考えてきたイベントは、地域貢献、防災、子どもたちを楽しませる、教育、モノづくり体験というコンテンツでやってきましたが、この審議会に参加したおかげで視野が広がりました。今後も徐々に新しい分野で静岡市を盛り上げていくことができるよう活動をしていきたいと思えます。チラシを置いてくれとか、そういったことでも結構です。ビーチフェスタで検索していただければ、フェイスブックも出てきますので、お声がけくだされば皆さんと協力したいと思いま

す。文化一本ではなく、フォローや協力できることがあれば、できることから協力したいと思います。今後ともよろしく申し上げます。

(平野会長)

コロナの影響がなければ、直近の取組は何ですか。

(河村委員)

6月7日の大浜ビーチフェスタです。安倍川花火大会の動向に影響されるかなと思います。安倍川花火大会がなくなると、うちもやるとは言い切れないなと思っています。密度が違って、海岸で風が吹いていて、広い砂浜を使うということがどう影響されるかとは思いますが、判断が難しいです。

(平野会長)

ぜひ実施できるといいですね。可能な限り条件を整えつつということですね。

ありがとうございました。では、久保田委員、お願いします。

(久保田委員)

いろいろとありがとうございました。だいぶ、いろんな発言をさせていただきました。私としては、やっている仕事や経済的な団体の立場、自分のやっている音楽と共に、文化とはどんなものかということをお皆さんと一緒に考えることができたと思います。

ここにきてコロナが起これ、つくづく思ったことが、クラシックもジャズも相撲もスポーツも何もかも含めて、どれだけ危うい世界というか、ぎりぎりのところでやってきたなと思いました。今回、それを思い知ったような気がします。ガラス細工のようなものの中でやってきたことを実感しました。こうなってしまうと、明日の食事が大事ということもありますが、それが力になったということもあります。9年前の3.11の時も、あれだけのことが起きて、ちょうどその時も今回と同様に静岡まつりが中止になりました。そういうことをやっている場合かという空気もジャズクラブの中に広がって、ミュージシャンも自分で考えてしまい、その時に音楽活動を止めてしまった人もいました。いろいろなことが起こりましたが、それでいながら、あの時、放射能が怖いということで何人ものミュージシャンが来日をキャンセルしていました。NHK ホールにプラシド・ドミンゴさんが来て、そのコンサートを見て、ふるさとを歌ってくれたのですが、ホール全体が涙を流しました。その時に、文化の力・芸術の力はすごいと確信しました。それでありながら、今回大勢が集まってはいけなくなっており、これは新たな難問だと思いながら、文化の力を信じる場所がないと、人間ではないとつくづく思っています。みんなが幸せになるような文化の使い方というか、そうなればいいと思っています。

(平野会長)

3.11の時は、歌舞伎座も一日か二日でしたね。休んだのは。今回も大変な状況になり、いろいろと沈んだ状態です。それにしても、久保田さんはキーパーソンですので、いろいろと支えていただきました。

いと思います。

(久保田委員)

頑張ろうとは思いましたが、静岡まつりは無理でした。

(平野会長)

それでも桜は咲きますから。

(久保田委員)

これで、4月3～5日がいい天気で桜も満開だったら、こんなに頭にくることはないと思います。

(平野会長)

ありがとうございました。では、是永委員、お願いします。

(是永委員)

皆さん、ありがとうございました。

静岡市の文化協会では、少子高齢化で皆さん積極性が少し薄れてきているという感じがあります。こういう状況の中でも文化はずっと生きています。イベントはできないかもしれませんが、個々の文化を高める勉強は十分できると思いますので、そこの辺りを高めていきたいと思っています。今後どうしようかという会議も中止になっており、総会もすべて中止になりました。やれないでしょうとなり、話をする場もありません。文化は生き物ですから、そういう状態の中でも文化を生かす方法を考えていく必要があるのではと今思っています。できることだけではなく、できないことでもできるように進めていきたいと思っています。

(平野会長)

心強い言葉をありがとうございます。是永さんの力で、傘下のいろいろな人たちが活動していただいているので、いろいろとアイデアを頂戴したいと思いますので、よろしくお願いします。

(成島委員)

皆さん、ありがとうございました。

今、SPACはゴールデンウィークの時に、世界演劇祭というもの、静岡市と一緒にストレンジシードというもの、駿府城公園でも公演を予定しています。これらは日々変わる情報の中で、なかなか厳しい状況であります。特に海外からの招聘カンパニーが出国・入国ができません。連日会議をしつつも、なかなか答えが出せない日々です。移動に関しては、戦後、グローバル化の恩恵を受けてきました。世界演劇祭のように、世界の生身のものを見ることが、人が移動してこそ可能だったり、劇場というものの役割だったり、それが今、大きな展開を迎える時に急になってしまったと思います。その中で、ネットでの配信演奏や朗読劇の配信を工夫している海外の劇

場があったり、ロシアだと1人だけお客さんを選んで、1人のためだけに上演する劇場があったりもします。今の緊急事態に対する対応もあるが、何かライブの価値というものがあるものになっていき、ネットで配信されるようなことも多様になっていくという切り替わりのタイミングではないかと思っています。今は、あまりにも日々の状況の変化に疲れて、未来の劇場や未来の演劇の形を妄想することをやりたいなと思います。そういうところに希望を見出したいと思います。劇場がこうでなければならないということや、文化がこうでなければならないということではなく、文化の力を信じつつ、時代と共に変化することをしなやかに引き受けて生き残ることを探っていきたいし、伝えていきたいと思っています。今、集会がダメ、議論がダメということがかなり思想としても厳しい状況だと思うので、議論は絶やさずにいきたいと思っています。

(平野会長)

観客1人のためにというのはすごいですね。そういうことを聞くと、それだけで我々は心が動きます。芸術ってそういうやり方があるのですね。渋谷のシアタークリエが、朗読劇で参加できなかった人たちのメッセージをシートに貼りました。そういうやり方などいろんな工夫が起きていて、そういうことに屈しないという姿勢が、また次の何かを作っていくということが見えてきています。

では、中村委員、お願いします。

(中村委員)

短い間でしたが、ありがとうございました。

私は、図書館で市民委員の募集の紙をみて応募しました。今までは子どもと一緒に街角コンサートのスケジュールを見て街に来る、もしくはそれに合わせて用事をするということをしていたので、文化といっても催しのたびに美術館に行くということにはしていませんでした。また、こういった企画があるとか、招待券をいただいた時には、子どもの世話などを頼んでから行ってました。審議会に参加するようになってからは、子どもと一緒に楽しむことができるということを感じたり、子どもの視点に気づかされたり。美術館では、子どもなりにここは静かにしなくてはいけない場所だということを感じることができているということ、私が言わなくても学ぶことができているということを実感できました。

子どもがコロナショックで休校になってしまったのですが、今は何曜日なのか春休みなのかということもわからなくなり、配付されたプリントもやりつくしてしまいました。休校だからといって遊びに行くのもどうなのかと思っています。周りの子どもたちも真面目に公園にも集まっておらず、最近になってようやく、風通しもいいから行ってみようかと言っているところです。先程、映像の話がでましたが、教育委員会でやっているウェブ上の三択でやるドリルなどのコンテンツを知ると、子どもたちはパソコンを知らなくてもクリックをするなど、わかるんだなと思いました。文化的なことも私たちが考えるよりも、もっと次の世代が臨機応変に選んで自分の好みのものを選択するのかなと思いました。

今回、市民アンケートの結果に基づき、このように検討されるということがわかりました。以前、アンケート内容を集約して打ち込むという短期の仕事をしていまして、その時、読めない字

や、この人に聞いているのに、最後に自分ではわからなかったので主人に相談して答えましたという意見もあったりしました。どうやって相手を抽出しているのか聞いてみたりもしたのですが、これが何に繋がっているまでは知りえなかったです。今回このように参加させていただき、こう繋がっているということが私自身知ることができ、学びにもなりました。良い機会をいただきありがとうございました。

(平野会長)

お子さんの存在が身近にあって、そういった存在を忘れてはいけないと思います。子どもから教わることもたくさんありますよね。美術館でモネの睡蓮を見て、「カエルがいる」と子どもが言ったそうです。実際には、カエルは描かれていないのですが、子どもならではの気づきに学ばせてもらうことも多いので、大事にしていきたいなと思います。ありがとうございました。

では、田中委員お願いします。

(田中委員)

皆さん、ありがとうございました。

今、コロナで大変ですが、うちの美術館は何とかやっております。閉鎖した部屋でやるワークショップなどは中止にいたしました。展覧会は静かにやっております。思えば、9年前の3.11の時は、前年の春にオープンし、初年度の最後の時でした。展覧会は開いており、棟方志功展をやっていました。これが3月11日を境に、閑古鳥が鳴いていました。それでも一応は開いていました。コロナではなく地震だったので開いており見事とはいきませんでした。それでも最後まで完遂しました。今回も、3月29日まで何とか完遂できそうと思っています。いろいろあってもこのように開くということは、普段からすると3分の1や2分の1になってしまうのですが、先週末から見ているのは、皆さん来てくださるのです。何かやっているということがあれば、人が来るのです。美術館は普段から濃厚接触するような場所でもないし、基本トークフリーデー以外はそう話すところでもない。静かに皆さん作品を見ているから、開いていてある意味良かったなということ、ちょうど9年前と今回と同じ時期だったのでそう思いました。

ちょっと思い出したのですが、芥川龍之介は男前でニヒルなタイプですが、大阪毎日新聞の特別職だったようです。その時、ちょうど関東大震災があって、1,923年ですが、ニヒルな芥川が大震災の時に「我々物書きは何て無力なんだ」ということを書いていました。当時の新聞をコピーして持っていますが、あの男にしてこんなことを思ったんだと思いました。でも、最期は結局「自分は文筆、文化の力を信じる」ということを書いていました。なかなか感激するような文章でした。3.11もそうでしたが、あの時に証明されたと思います。スポーツも文化もいくら食べるのに必要でなくても、みんなが大事であるということを知ったと思います。今回も、もちろんそうだと思います。こういう世の中でもSNSやインターネットでいろんな発信をしています。それは、すごくいろいろな力になっていると思います。それに関わるものとして、こういうことは続けていきたいと思っています。それが日本のためになると信じてやっていきたいと思っています。

(平野会長)

今、芥川の名前が出ましたが、この七間町のもと映画館のところに古本屋があるのをご存知でしょうか。そこに芥川の全集が4,000円で売っており、ずっと売れずにいます。いつ買おうか狙っていますが、もう置く場所がなくて買えずにおります。

皆さんもご存知かと思いますが、駅前から大きな本屋が無くなります。60万冊の本に接する機会がなくなるということは、なかなか大きなことだと思います。リアルに触れる機会が奪われるということです。いろいろ情報交換をやってきたとは思いますが、とうとう続けられなくなってしまいました。

最近、藤原正彦さんが本屋を残そうのような本を出しました。リアルな文化を残していくためには、本屋さんや古本屋さんがあるようなまちは大事だと改めて思います。もちろん、音楽に触れる機会も大事です。今はCDショップ、我々の頃はレコード屋と言いましたが、そういった店も消えていき、寂しいと思っています。メディアが変わると一気に世の中が変わるのだと思いますが、そういったものを我々はどう捉えていくか、どう関わっていかなければならないのかというところも含めて見ていかねばなりません。世の中にコロナとか大きな事件があると、大惨事便乗商法と言うのでしょうか、そういったものが横行したりしますが、メディアが有り難い反面、注意して関わっていかねばならないということを学ぶいい機会になっていると思います。いずれにしても、この審議会でも多くのことを私も学ばせていただきました。どうもありがとうございました。

それでは、いったん事務局の方にお返しします。

(事務局 草分)

会長、皆様、ありがとうございました。皆様には、毎回活発なご議論をいただきありがとうございます。皆様の任期が令和2年5月までとなりますが、こうやって会としてお会いできるのはこれが最後になると思います。改めて2年間ありがとうございました。お礼を申し上げます。

来年度は、先ほどもご紹介いたしました、文化振興計画の見直しの作業を行うとともに、市民文化会館の基本構想・基本計画を策定するにあたりまして、委員の皆様から引き続き意見をいただきながら進めていきたいと思っていますので、ぜひよろしくをお願いします。

それでは、以上を持ちまして文化振興会議を終了させていただきます。本日はお忙しいところありがとうございました。